

	提案事業名	提案内容	地方創生としての取り組み
①	芸術・文化溢れる魅力ある街をめざして	日本の著名な芸術家の美術館を誘致し、芸術・文化の溢れる街とする。美術館はそれほど大きなものでなく、様々なジャンルの美術館を複数できるだけ多く誘致する。参考になる都市として、山梨県の北杜市。北杜市は平山郁夫シルクロード美術館をメインに20数カ所造っている。	四季を通じた観光客の集客を促進する取り組みとして「ギャラリーの充実」に反映しました。(総合戦略案P.18)
②	箕面花散歩	春と秋、花を訪ねて歩きたい。オープンガーデンも素敵！年輪を感じる大木を目印に坂を登ったり降りたり、池のほとりで休んだり。グルメ・カフェ・コンビニの情報入りのマップがあればいいな！	四季を通じた観光客の集客を促進する取り組みとして、「花を巡るコース設定など四季折々の花の活用」に反映しました。(総合戦略案P.18)
③	魅力的な住みたくなる街を目指して	箕面の住んだ空気のもと、散歩するによし、サイクリングするによし、車で出かけ気兼ねなく停めることができる駐車場があって、憩い・飲み・安らぐ、そのような集の施設を建設する。具体的には、飲食・ショッピング・イベントステージや芝生広場、季節感が感じられる並木道などがある魅力的な施設とする。(規模的には75m×230m、約17,250㎡以上)	提案施設として、かやの中央(箕面新都心)が類似のものと考えられます。
④	働く父母の37.5℃の壁を取り除く	子どもが急に発熱した朝に近所の子育て経験者の方に家に来てもらい、面倒をみてもらう制度。行政がバックアップし、必要なところを補う。	萱野保育所病後児保育室を改修して、施設型の病児・病後児保育事業を行う予定もあり、安心して出産・子育てができ、仕事との両立を実現できる育児環境を充実させる取り組みとして、「病児・病後児保育などの充実」に反映しました。(総合戦略案P.19)
⑤	買物に行く時間、子どもを預かってくれる制度	子連れで買い物、特に乳幼児連れは大変。子どもは重いし、荷物も重い。子どもはちろちろ気の休まる間がない。週に一度か二度でもいいので、子どもから解放されてゆっくり買物ができればリフレッシュできると考える。子育てを余裕をもってできれば、二人目、三人目と産みたくなる人もいます。	ファミリーサポートセンター事業や一時保育を実施しており、安心して出産・子育てができ、仕事との両立を実現できる育児環境を充実させる取り組みとして、「一時保育などの充実」に反映しました。(総合戦略案P.19)

	提案事業名	提案内容	地方創生としての取り組み
⑥	世代をつなぐ“おしゃべり会”の創設	各学校の開放教室を使い“おしゃべり会”を開催。世代毎の交流はあるが、年代を問わない交流が乏しい。子育て中のお母さんの孤立、一人暮らしの高齢者の交流ができれば！	安心して出産・子育てができ、仕事との両立を実現できる育児環境を充実させる取り組みとして、「おしゃべり会による子育て中の親世代と地域の高齢者との交流」に反映しました。(総合戦略案P.19)
⑦	仮名称「あいさつ道路」	箕面サンプラザ北側池田泉州銀行前あたりから阪急箕面駅に通ずる道路を「あいさつ道路」に設定。見知らぬ人からあいさつされた時の不安を解消するため、「あいさつ道路」を設定し、その区間では行き交う人たちが積極的にあいさつができる場とする。人と人との出会い、あいさつを交わす言葉、お辞儀ひとつにしても、相手の心は変わるもの。長い目で見れば、箕面市民の活性化が始まるのではないかな。	あいさつが溢れるまちとして、魅力あるまちづくりにつながるものと考え、多くのひとの「箕面に住みたい」機運を醸成する取り組みとして、「あいさつ道路であいさつ推進の取り組み」に反映しました。(総合戦略案P.17)
⑧	ラウンドアバウト～協働(郷土)愛～	<p>2035年の高齢化問題(要介護者増加、介護者不足、コミュニティ間の人間関係)についての準備。</p> <p>(A) 就学前～小学校低学年の子を持つ母親のライフスタイルとして、ホームヘルプサービスはワークスタイルとして合致しているが、子どもを預ける場がないため、資格取得に必要な講習受講を断念している人が多い。 ⇒徒歩圏会場にて保育付き講習を行う。市から助成金が出る場合、代替として、サポートボランティア(C)、箕面市内就労、イベント立案等を条件とし、介護者の人員確保というメリットから市内事業所にも協力を依頼する。</p> <p>(B) 社会参加の意欲のある高齢者が、働く場や多世代と関わる場が限られている。 ⇒保育サポーター講座を実施し、講習中の保育の一部は高齢者も参加してもらおう。市内子育てサポート団体にも協力依頼。</p> <p>(C) 社会資源の有効活用(インターネット等)がサポートなしにできない高齢者が多い。 ⇒防犯カメラ→徘徊老人見守り、制限付き箕面市高齢者向け通販サイト(地元商店等協力依頼)、ゲーグルプラスによる箕面サークルを作成等、通信環境整備。 [買物難民の減少][孤立化防止]←ホームヘルパー(A)がサポート参加、地域包括センターへ協力依頼。</p> <p>(D) 核家族化が進み、多世代交流の場が少なく、子どもが多世代教育を受ける機会が少ない。 ⇒保育・イベント参加による多世代教育。保育サポーター(B)が増加することで子どもを預ける場所が増える。子どもを見守る人が増える。</p> <p>A→B→C→D→A→B→という循環がうまくいくと、お互いに譲り合うことにより、円滑な流れをつくる交差点(ラウンドアバウト)のような世代間交流ができるのではないかな。</p>	各項目については既存事業にて実施しているものもありますが、高齢者の社会参加と子育て支援、就労支援等を組み合わせることで、だれもが健康で過ごし、活発に活躍することができる環境を効果的に充実させる取り組みとして「高齢者の社会参加と子育て支援・就労支援等の組み合わせによるラウンドアバウトのような円滑な多世代交流の機会創出」に反映しました。(総合戦略案P.22)

提案事業名	提案内容	地方創生としての取り組み
<p>⑨ 食を制して医療費抑制</p>	<p>糖尿病、いくつかの内臓疾患は時として入院を必要とし、退院後も食生活の改善が必要とされている。特に、病院に入院した場合、退院後の食生活は、制限のある食事を作る家族への負担が大きく、一人暮らしの場合は食事を作ることさえ、退院後の体力ではままならない。 箕面市は全中学校での給食事業をとおして、多人数の食を作るノウハウがあるので、以下を提案。 「退院後、体力が回復するまでの食事」「糖尿病や高血圧等、制限のある食事」を提供する場を用意することで、病気の再発・悪化を食生活面から防止し、最終的には医療費の抑制する。</p> <p>具体的には、 (1)箕面市立病院横にあるライフプラザを改築し、大型の食事ができる、給食施設を用意する。 (2)病院退院後は「ゆずるバス」、「ゆずるタクシー」でライフプラザに行き、自分の病状にあった食事(低カロリー、減塩など)を取る。 (3)その際、自分でできる簡単な健康チェックを行い、必要とあれば、栄養士の指導、健康状況によっては医師の診断を受ける。</p>	<p>現時点でライフプラザ施設の改修の予定はないため、すべてを実施することは困難ですが、だれもが健康で過ごし、活発に活躍することができる環境を充実させる取り組みとして、「医療保険センターなどでの健康指導や食事指導の実施」に反映しました。(総合戦略案P.22)</p>
<p>⑩ 地域コミュニティの活性化に向けて ～市民農園の拡充について～</p>	<p>貸し農園への取り組みを拡大発展させる。 農地について、土地所有者が高齢化し、世話できない土地を次の世代が活用、休耕地を有効活用することで人と人とのふれあう地域コミュニティを支える市民農園にする。 箕面市に市民農園が数カ所あるが、いずれも空きがなく何年も待ち状態が続いていると聞く。 畑作業を通じて、食の安全・安心を学び、新鮮野菜の味を発見し、子どもから孫に農業体験させる貴重な時間を得られることはもとより、利用者間のコミュニティの和ができ、しいては地域コミュニティへと発展していくことが見込まれる。こうしたことから、休耕地を整備して有効活用し、市民農園を小学校校区毎に数カ所確保することで箕面をもっと元気に。</p>	<p>市民農園を開園しやすい環境整備に向けて、国へ働きかけを行っています。市民への農業支援の一環として農業サポーター制度を実施しており、みどりを育み農林業の発展に向けた取り組みとして、「農業サポーターの拡充」に反映しました。(総合戦略案P.16)</p>
<p>⑪ 菜の花プロジェクトは箕面を元気にする！</p>	<p>■菜の花プロジェクトは大阪府内第1号の菜の花プロジェクトとして2005年8月に発足、今年10周年を迎える。最初の3年は止々呂美で、次の3年は学校や保育所などで環境教育に力を入れ、その後の3年は西小路3丁目の畑を中心に、そして去年からは茨木市泉原での栽培活動に力を入れてきた。できれば、また箕面市内の畑で多くの市民の方々に見守られて活動を続けたいと願っている。 ■かつて箕面市が箕面村だった頃、菜の花栽培が盛んで、菜種油が搾られていた。(もみじの天ぶらも菜種油が使われており、箕面と菜種油は縁が深い) 搾りたての菜種油は香りもよく、ヘルシーなので、復活すれば、ユズ同様、箕面の名産になる。 また、堆肥作りにも力を入れており、自然循環サイクルを意識した取り組みを行っています。 ■そして何よりも後継者不足に悩む箕面市の農業の活性化の一助になればと願っている。箕面の市街地には農地が点在しているが、だんだん住宅に変わりつつある。しかし、人口が減少するこれからは市街地の農地は宅地としての必要性は低下します。むしろ農地は緑地として路面の輻射熱を吸収したり、また水害の時には遊水地としての機能を発揮するなど、自然環境としての大切な役割を担っています。このような貴重な価値を持つ遊休農地の有効利用について農業者と協働して農地の利用率を上げつつ守っていくことを目指す。 ■遊休農地の活用として菜の花の栽培に留まらず、菜の花の収穫後は、イモを植え、近隣の幼稚園や保育園、子育てセンターにも呼びかけ、「親子で芋掘り体験」の取り組みを通し、コミュニティの人の結びつきを強める活動も行ってきた。 ■菜の花プロジェクトによって、箕面の農業の活性化を図る。 市に農業者と菜の花プロジェクトをつなぐコーディネーター役をしてもらい、農業者と協働し、遊休農地などを活用した菜の花プロジェクトを実施する。</p>	<p>市街地に残る農地は、箕面の大きな魅力である「みどり」として、今後も守り育てていくため、箕面市農業公社が設立されました。提案の趣旨につきましては、地力増進に資することから景観植物であるレンゲを主に活用・推進しており、みどりを守り育てる取り組みとして、「レンゲの花畑等の拡大」に反映しました。(総合戦略案P.16)</p>